

【特集】 未来へつなぐ 鳥獣被害対策

全国的に野生鳥獣が農地や森林を荒らしたり、人を襲ったりする被害が増えています。本市においてもニホンジカやイノシシ、クマなどの目撃情報が相次ぎ、私たちの生活圏にまで影響が及んでいます。今回の特集では、市内の鳥獣被害対策の取り組みを紹介し、安全・安心な暮らしと農林業を守っていくため、私たち一人一人にできることを考えます。



野生鳥獣による被害が拡大

近年、イノシシやクマなどの野生鳥獣による被害のニュースを目にする機会が多くなりました。市内でも目撃数が増え、農林業の被害が拡大しています。

農林水産省の統計によると、令和6年度の野生鳥獣による農業被害額は全国で約188億円。市内では約787万円で、被害面積は約3.4^{ヘクタール}となっています。7年度の市内の被害額は約1千138万円で、被害面積は約8.5^{ヘクタール}。被害額、被害面積ともに前年度を大幅に上回る状況にあります。これは、鳥類による稲の被害と、獣類による果樹の被害が増えたことが大きな要因ですが、この数値は農地だけのもので、家庭菜園などは含まれていないため、実際の被害はさらに大きいと推測されます。

イノシシやクマの移動は広範囲にわたるため、被害の対象範囲も年々広がりを見せ、予測することが困難となっています。

市街地へのクマの出没が増加

近年、中山間地域だけでなく、市街地でもクマの目撃が多発。商業

施設内に侵入する事例も報道されています。クマによる人身被害も増加し、昨年は全国で過去最多を記録。国は、人の生活圏にクマやイノシシが出没した際、安全が確保されていることなどの条件の下で、市町村が依頼した猟友会などによる銃猟を可能とする「緊急銃猟制度」を昨年9月に施行しました。

これを受け、市は独自に緊急銃猟対応マニュアルを策定。今年6月にクマが市街地に出没した際、市民の安全を守るため、市長が緊急銃猟を指示しましたが、実際には発砲せずに捕獲されました。

環境の変化が出没増加の要因に

野生鳥獣の出没が増えた背景には、中山間地域の人口の減少や遊休農地の増加があり、特にニホンジカやイノシシの繁殖力は非常に高く、それらの要因から個体数が急激に増えたと考えられます。

また、山林内の餌が少なくなったことで、動物たちは食料を求めて人の生活圏へ進出せざるを得なくなりました。こうした中、私たちの生活と本市の豊かな農林業を守るため、最前線で鳥獣被害に立ち向かう人たちがいます。